まちの未来 考えてみませんか

人口減少問題

これは岩見沢市だけではなく、大都市圏以外の全国市町村に共通の課題です。さらに、北海道においては、全国を上回るスピードで急速に進んでいます。

このまま放置しておくと、様々な分野で取り返しがつかないことになる深刻な問題です。

今月号では、この難題を解決する糸口を見つけるために動き出した新しい取り組みなどを紹介します。市民の皆さんで共通の認識を持ち、何ができるのか考えてみましょう。

まちが消えるなんて…

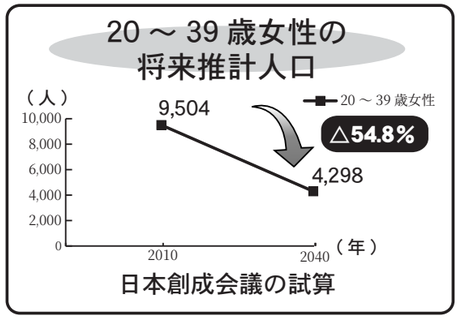
最近、「地方消滅」や「消滅可能性都市」という言葉をよく目にします。言葉だけを見ると非常に衝撃的な印象を受けますが、もちろん、映画やマンガのように、人や街が消えてしまうといったものではありません。

人口減少が続いていくと、自治体は今のままでは立ち行かなくなるという、民間の有識者会議「日本創成会議」が公表した人口統計分析による警告で、早急な人口減少対策を促しています。

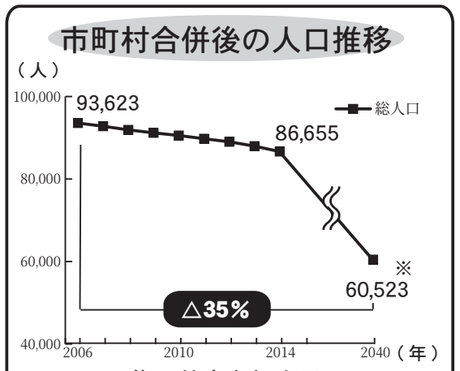
具体的には、子どもを産む中心世代である20から39歳の女性の数に着目したもので、2010年からの30年間で半数以下に減る自治体を指します。全国で896自治体が該当し、残念ながら、岩見沢市もこの中に含まれています。

市の人口は、平成18年3月27日の市町村合併時が最も多く、その後10年余りで約1割減少しており、人口減少に歯止めがかからない状態です。特に20代・30代の若者が市外に流出する傾向にあります。

市民の皆さんは、人口減少問題をテレビで見たり、新聞を読んだりして、気にすることはあっても、深く考えたことはありますか？



日本創成会議の試算



住民基本台帳人口
※国立社会保障・人口問題研究所の試算

身近に例えると…

人口減少をわかりやすく考えるため、もう少し規模を小さくして、身近な問題に置き換えてみましょう。

100人の町会（自治会）があるとします。そこから、働き盛りの人のいる家庭を中心に会員が減り、65人になったとします。

そうすると、地域の皆さんが交流するお祭りやイベントの担い手と参加者が減り、イベント自体が成り立たなくなり、地域の活気も次第に失われていきます。街路灯やごみステーションなどは、人が減っても維持管理の費用や必要な人手は減らないため、三人で負担していたものが、二人で負担しなければならなくなります。そうして、今までどおりの町会（自治会）の活動が難しくなってしまうのです。

ひとごとではない…

ここで話を岩見沢市に戻しましょう。人口が減り、特に若い世代が市外に流出すると、活発に動く世代が減っていくため、地域の活気が次第に失われていきます。人口減少で、高齢の方も減りますが、それ以上に若者が減るため、流出した人たちの分を残された人たちで補わなければならず、介護保険や福祉などの市民一人当たりの負担が増大します。また、市民税などの税収も減るため公共サービスに影響を与え、廃止となるサービスが出てくる恐れがあります。

このように考えると、人口減少問題は、私たちの生活に直結していて、じわじわと様々な分野に打撃を与える深刻な問題であることがわかります。

今、やらなければ…

市は、人口減少に歯止めをかけるため、様々な取り組みを行ってきました。

市から転出する方にアンケートの協力をいただき、転出先や理由などを調査して施策に反映させています。緊急通報装置の設置や高齢者世帯等雪下ろし助成制度、産前・産後ヘルパー制度、不妊治療費助成制度、乳幼児等医療費の助成など、市民の皆さんに、住んでいて良かった、住み続けたいと実感してもらえる取り組みを行っています。

どの施策も、目に見える効果がすぐに出るものではありませんが、長期的な視野に立ったうえで、着実に、そして継続して取り組んでいかなければなりません。

そこで市は、流出が目立つ20代・30代の若いチカラに注目しました。

第一の若いチカラ

昨年10月、喫緊に取り組まなければならない課題解決に向け、組織横断型の課題対策チーム（注ＣＦＴ）を設置。人口減少対策と地域経済活性化対策の二つのチームが、短期的、さらには中・長期的な戦略を構築し、今後の施策にしっかりと反映させていきます。

人口減少対策チームは現在、市の現状把握をはじめ、市の強みと弱み、先進事例、移住・定住に関する既存施策の分析を行っています。

平成27年度は、人口減少対策の具体的な計画である「岩見沢市総合戦略」を策定することとして取り組んでいます。

（注）組織横断型　課題対策チーム

Cross **F**unctional **T**eam

様々な部門や職位、そして多様な経験・スキル・知識を持つ職員により構成されていて、現行の組織の枠組みや階級を超え、調査研究や施策の提案等を行う。メンバーの年齢が若いことから、過去のやり方やしがらみに捉われない、独創的なアイデアが期待されている。

今回、ＣＦＴの取り組みとして、教育大学の学生の皆さんとグループ討議をして、とても刺激になりました。

私は、市役所に入ってまだ３年目で、市の職員としてはまだまだです。その反面、半人前だからこそ出せる、公務員らしくないアイデアがあると思っています。どちらかと言うと、教育大学の学生の皆さんに近いかもしれません。このＣＦＴの取り組みの中で、そういった若い感覚を前面に出して、岩見沢市の未来を素晴らしいものにできよう全力を尽くします。

ＣＦＴ「人口減少対策」チーム
最年少メンバー　鎌倉主事

第二の若いチカラ

さらに、課題解決に向けた一つの取り組みとして、北海道教育大学岩見沢校と連携してこの難題に立ち向かうこととしました。

同校の学生が、政策学概論の授業の一環として、人口減少対策について学んでいたことから、市の人口減少対策チームと一緒に討議。様々なアイデアを出し合あってまとめましたので紹介します。

住み続けたい街にするために、
- 芸術・スポーツによるつながりづくり
- 外観の良い街
- 住むと特典がある

この３つを連携させる「いわみざわすみっとくプロジェクト」。
家賃の補助などの住む特典を提供し、住んでいる中でつながりをつくり、安心だから住み続けようと思ってもらうためのプロジェクト！

Ａチーム　松本さん

岩見沢市の人口減少に関する課題は、
- 高校、大学卒業の際の市外への転出
- 駅前中心地からの市民離れ

であると判断し、中心市街地活性化により、市民の「ここに住みたい」を作ることが、長い目で見た人口減少抑制の土台になると考えました。
空き店舗の利用や、就業・創業支援、市民が集う場として、アトリエマーケットや親子カフェ、芸術・スポーツひろばを設けるなど、地道な活動が活性化につながるはず！

Ｄチーム　片寄さん

岩見沢を芸術の街に！
外国のアスリートやアーティストのたまごに岩見沢で活動をしてもらい、地域の人々や教育大学と交流することによって、街全体が明るくなります。
つながりによって、外国人に愛着を持ってもらい、もう一度帰ってきてもらえる環境整備をします。
人口減少の原因は人が岩見沢から離れてしまうこと。親しみをもってもらい、岩見沢をもっと知ってもらおう！

Ｅチーム　谷山さん

岩見沢の強みであり弱みでもある雪をいかし、ドカ雪まつりのイベントをひと工夫。雪合戦や雪上ビーチフラッグスの開催、プロジェクションマッピング、除雪車デザインコンテストなどの新たなイベントを行います。
彩花まつり、くりさわ農業祭、きたむら田舎フェスティバル、ふるさと百餅まつり、ドカ雪まつりを岩見沢の五大まつりとし、学生やＮＰＯ主催にすることで、就職先の受け皿となり、人口減ストップ！

Ｂチーム　発表の様子

札幌から高速道路を使い車で約30分の岩見沢で、北村や栗沢の夕陽や星空、豪雪など、大自然を味わうことができるため、道央圏に来た外国人の観光客に非日常を体験してもらいます。
市内に本社を置くツアー会社を立ち上げ、春夏秋冬それぞれの季節で楽しめるツアーを企画し、岩見沢の魅力を多くの人に伝えます。
ツアー会社の立ち上げにより、雇用が増え、観光客の増により、活気のある街になり、人口が増える！

Ｃチーム　越後さん

教育大学の学生とＣＦＴ　人口減少対策チーム

北海道教育大学岩見沢校 芸術文化政策研究室　閔（ミン） 鎭京（ジンキョン） 准教授

「芸術はどんな役割を果しますか？」という設問に、「人の心が豊かになります！」という“永遠の正解”がよく返ってきます。芸術文化の政策論でも一人ひとりの生き方や社会的課題に芸術文化がどう向き合えるかという視点よりは、芸術文化の振興自体に重点が置かれがちでした。いま芸術文化が街づくり・医療・福祉等の地域政策と連携・協働することにより、その役割は深く広がります。

21世紀を担う学生が「人口減・少子化」に芸術・スポーツを切り口とした貢献策を考えることで、その意義や価値を問い続けることができると思います。

みんなで一緒に…

このふたつの若いチカラが、人口減少問題という難題に、立ち向かっています。

人口減少対策を学んでいる教育大学の学生の中には、大学への入学を機に、岩見沢市に転入してきたという方や市外から通学している方など、もともとの岩見沢市民ではない方もいます。

人口減少問題は、市民の皆さんをはじめ、岩見沢で学ぶ人、働く人と一緒に取り組まなければならない問題です。

◇　◇

市は、市民の皆さんに、住んでいて良かった、いつまでも住み続けたいと思われるように、そして、やむを得ず岩見沢市を出た人にも、自分の故郷（ふるさと）は岩見沢だと胸を張ってもらえるように、全力を挙げてまちづくりに取り組んでいます。

そのためには、市民の皆さん一人ひとりの岩見沢市への想（おも）いとかかわりが必要です。

今、岩見沢市にいる私たちが手を取り合い、オール岩見沢で取り組まなければなりません。大きな危機は、大きなチャンスでもあるのですから。

問合先　市企画室

人口減少問題をはじめ、ＣＦＴの取り組みの状況は、随時、広報いわみざわでお知らせします。